

1) 過去問題の傾向と対策

① 有名出典からの出題が多い。過度な難問はなく、分量も標準的。

↓ まずは高校・予備校での授業内容の消化を。

↓ 文学史の出題有無に関係なく、**国語資料集**などを通じて有名出典の知識・特徴をつかんでおく。

② 知識問題が比較的多く、取りこぼしに注意。特に助動詞に関係する出題が多い。

↓ しつかりと基本を身につけた受験生は報われる。

↓ **本文読解の難易度が低くない年度でも、基礎知識があれば対応できる設問も多かった。**

③ 解釈問題・内容説明・内容合致問題の出題もある。

↓ **選択肢に頼らずに考える解答姿勢が重要。出題意図を考えることが大切。**

↓ **語彙力の増強を怠らないこと。頻出語句の出題も多い！古文単語集を完璧に！**

④ 直前期の仕上げ

↓ 現代文との時間配分を考慮し、直前期には**20～25分間で古文を解くこと**を目標にして過去問演習をするのがよい。**(設問数は標準～やや多めなので時間配分に注意してください)**

2) 具体的な勉強方法 徹底した基礎固めと毎日の学習を！

① 古典文法 (1) … 助動詞の理解。《最重要》

↓ 意味・活用だけでなく接続まで、活用表をきちんと理解すること。

↓ **もつと基礎的な「用言に関する文法問題」も出題されるので、高一・高二レベルの基礎固めも忘れずに。**(例…二六年度入試の問一など)

② 古典文法 (2) … 敬語の理解。

↓ 敬意の対象を問う問題への対応だけでなく、読解のためにも必須。

③ 古文単語 … 古文単語集を最低3周。

↓ 単語集だけでなく、**読解問題演習の中で触れた単語を憶えるようにすると効果的。**

④ 読解演習…他の日程の出題も似たような形式なので、**東洋大の過去問対策が有効。**

↓ 過去問のほかにも、読解問題集の「基礎～標準レベル」の問題に数多く取り組むとよい。

☆ 古典文法・古文単語・古典常識の知識をしつかりと身につけて問題演習を積み、必ず読めるようになる。安易な解法テクニックに頼らず、きちんと「読む」ことを心がけよう。

●過去問解説 解答

4 5 ④	3 7 ③	2 9 ⑤	2 1 ②
	3 8 ②	3 0 ②	2 2 ⑤
	3 9 ③	3 1 ①	2 3 ①
	4 0 ②	3 2 ②	2 4 ④
	4 1 ①	3 3 ③	2 5 ③
	4 2 ①	3 4 ③	2 6 ②
	4 3 ②	3 5 ①	2 7 ④
	4 4 ③	3 6 ④	2 8 ③

●本文の大きな流れ

- ① 中納言は、根合の競技に左方として参加するよう頼まれ、引き受ける。
←
- ② 右方は三位中将を味方に迎え、左方・右方ともに勝負への期待を高める。
←
- ③ 根合せ当日、中納言は立派な根を携えて参上する。
←
- ④ 遅れて現れた三位中将が中納言を挑発するが、中納言は謙遜と冗談を交えて応じる。
←
- ⑤ 中納言が用意した根は見事なもので、左方が勝利する。

・現代語訳例はTOYOWebStyle内で閲覧できますのでそちらをご参照ください。